

異業種3社のモーダルシフト・共同輸送が 国土交通省の総合効率化計画に認定。

～ 商品特性を生かした混載と最適なラウンド輸送により効率的輸送を実現 ～

関光汽船(株)(代表取締役社長 入谷一成/以下「関光汽船」)は、サンスター(株)(以下「サンスター」)、キューピー(株)(以下「キューピー」)、日本パレットレンタル(株)(以下「JPR」)の各社と連携したモーダルシフト・共同輸送を、7月18日(木)から開始します(関光汽船が全行程の輸送手配を行い、グループ会社・阪九フェリー(株)の泉大津・神戸⇄新門司航路を利用。)

この共同輸送は、モーダルシフトによるCO₂排出量削減やトラック運転時間の削減はもちろん、各社で特性が異なる製品を混載することで、重量と容積の両面で積載率の最大化を図り、また、最適なラウンド輸送ルートにより高い実車率を実現するもので、国土交通省より総合効率化計画として今般認定されたものです。

■ 関西・九州間で、業種を越えた共同輸送を開始

共同輸送を実施するのは、関西と九州をつなぐ輸送ルートです(キューピーおよびサンスターが関西から九州へ、JPRが九州から関西へのルート)。この一部を船舶に置き換え、往路はキューピーとサンスターの荷物を混載し、復路はJPRの輸送用レンタルパレットを積載することで、輸送効率を高めます。混載の対象製品は、マヨネーズやドレッシングなどの調味料とハミガキやハブラシなどのオーラルケア製品です。

■ 高い積載量とコンテナ空間の有効活用を同時に実現

マヨネーズやドレッシングなどの重量品を輸送する場合、最大積載量を満たしても、コンテナの空間が余ってしまう場合があります。一方で、オーラルケア製品のような軽量品は、コンテナ一杯に積み込んで最大積載量を満たさない場合があります。

今回の取り組みでは、従来各社で手配していた10t車を、20tの13mセミトレーラーに変更し、重量品と軽量品を組み合わせることで輸送することにより、コンテナ空間を有効活用し、より多くの荷物の輸送に成功しています。

■ 輸送ルートのマッチングにより実車率99.4%を実現、CO₂排出量は65%低減

この取り組みでは、行き荷と帰り荷のマッチングをすること、3社の物流拠点を効果的に回ること、99.4%の高い実車率を実現できます。また船舶へのモーダルシフトや輸送の効率化により、個社単位での輸送と比較し、CO₂排出量が約120.0t(65%)低減します。

併せて、長距離の陸送がなくなることで、ドライバーの年間の稼働時間が約2,256時間(86.8%)削減できると想定され、労働環境の改善効果も期待できます。

■ 今後の展開

近年の物流業界は、ドライバー不足や物流費の上昇、CO₂削減等、様々な問題を抱えています。今後も、業種にかかわらずパートナーとなりうる企業と積極的にこの取り組みを広げ、持続可能な物流体系の構築を進めてまいります。

本件に関するお問合せ先

(広報に関するお問合せ)

関光汽船株式会社 本社 TEL: 083-231-7382 (担当: 総務部 野原)

(物流に関するお問合せ)

関光汽船株式会社 大阪支店 TEL: 06-6343-1922 (担当: 国内営業課 吉岡)